

注3

大学番号：594

[平成22年度設置]

計画の区分：大学の設置

注1

認可

ヤマザキ学園大学 動物看護学部 動物看護学科

注2

## 【認可】留意事項実施状況報告書

学校法人 ヤマザキ学園  
平成26年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課） 大学事務局渋谷キャンパス事務部

職名・氏名 部長 <sup>スダ</sup>須田 <sup>エイジ</sup>栄二

電話番号 03-3468-1100

（夜間） 03-3468-1100

F A X 03-3466-5885

e-mail suda@yamazaki.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部

(□□学部(平成◇◇年度より変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学新設の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

※「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。

3 大学番号の欄については、平成26年3月20日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

# 目 次

1 調査対象大学等の概要等	P 1
2 授業科目の概要	P 5
3 施設・設備の整備状況, 経費	P 13
4 既設大学等の状況	P 15
5 教員組織の状況	P 16
6 留意事項に対する履行状況等	P 26
7 その他全般的事項	P 28

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人 ヤマザキ学園

## (2) 大学名

ヤマザキ学園大学

## (3) 大学の位置

〒192-0364 (本部)  
東京都八王子市南大沢4-7-2  
〒150-0046  
東京都渋谷区松濤2-3-10

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ヤマザキ カオル) 山崎 薫 (平成6年6月)		
学長	(ナカムラ ツネノリ) 中村 經紀 (平成22年4月)	(ヤマザキ カオル) 山崎 薫 (平成25年4月)	平成25年4月1日 体調不良による辞任に伴う変更 (25)
副学長	(ヤマザキ カオル) 山崎 薫 (平成22年4月)	(セキ マサカツ) 関 正勝 (平成26年4月)	平成25年4月1日 学長就任に伴う変更 後任を置かないこととする (25) 平成26年4月1日 教員組織の検証を行い、副学長の後任を置くこととした(26)
学部長	(ワカオ ヨシト) 若尾 義人 (平成22年4月)		
副学部長		(ニノミヤ ヒロヨシ) 二宮 博義 (平成26年4月)	平成26年4月1日 さらなる学修環境向上のため、 教員組織の検証を行い、副学部長を置くこととした(26)
学科長	(ニノミヤ ヒロヨシ) 二宮 博義 (平成22年4月)	(アマノ タカシ) 天野 卓 (平成26年4月)	平成26年4月1日 前任者の副学部長就任に伴う変更 (26)
副学科長		(オカザキ トシオ) 岡崎 登志夫 (平成26年4月)	平成26年4月1日 さらなる学修環境向上のため、 教員組織の検証を行い、副学科長を置くこととした(26)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。  
(例) 平成24年度に報告済の内容 → (24)  
平成26年度に報告する内容 → (26)  
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。  
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。  
 ・ 様式は, 平成23年度開設の4年制の学科の場合(平成26年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の名称(学位)	設置時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
動物看護学部 動物看護学科 学士(動物看護学)	4年	180人	0人	720人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。  
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	180人 ( - ) [ - ]	-	180人 ( - ) [ - ]	-	180人 ( - ) [ - ]	-	180人 ( - ) [ - ]	-	180人 ( - ) [ - ]	-	1.05倍	
志願者数	247 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	278 (2) [ - ]	- ( - ) [ - ]	264 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	308 ( ) [ ]	- ( - ) [ - ]				
受験者数	238 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	265 (2) [ - ]	- ( - ) [ - ]	256 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	301 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]				
合格者数	238 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	255 (2) [ - ]	- ( - ) [ - ]	255 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	294 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]				
B 入学者数	184 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	200 (2) [ - ]	- ( - ) [ - ]	195 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	183 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]				
入学定員超過率 B/A	1.02		1.11		1.08		1.01					

- (注) ・ 数字は, 平成26年5月1日現在の数字を記入してください。  
 ・ ( )内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (( ))書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ [ ]内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。  
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。  
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。  
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位まで記入**してください。  
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「**入学定員超過率**」と同様にしてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[ - ] 184	[ - ] -	[ - ] 200	[ - ] -	[ - ] 195	[ - ] -	[ - ] 183	[ - ] -	
2年次	[ - ] 165	[ - ] -	[ - ] 175	[ - ] -	[ - ] 193	[ - ] -	[ - ] 190	[ - ] -	
3年次	/		[ - ] 164	[ - ] -	[ - ] 169	[ - ] -	[ - ] 184	[ - ] -	
4年次			/		/		[ - ] 160	[ - ] -	[ - ] 167
計	[ - ] 349	[ - ] 539					[ - ] 717	[ - ] 724	

- (注) ・ 数字は、平成26年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
  - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成23年度 入学者	184 人	22 人	平成23年度	10 人	0 人	・家庭の事情(1人)・経済的理由(2人)・修学意欲喪失(1人)・進路変更(3人)・進路変更(他の教育機関への入学・転学・編入学)(1人)・体調不良(1人)・入学辞退(1人)	12.0 %
			平成24年度	6 人	0 人	・家庭の事情(1人)・修学意欲喪失(1人)・進路変更(3人)・除籍(1人)	
			平成25年度	6 人	0 人	・一身上の都合(3人)・修学意欲喪失(1人)・体調不良(1人)・体調不良及び修学意欲喪失(1人)	
			平成26年度	0 人	0 人		
平成24年度 入学者	200 人	16 人	平成24年度	8 人	0 人	・一身上の都合(3人)・進路変更(1人)・進路変更(他の教育機関への入学・転学・編入学)(3人)・除籍(1人)	8.0 %
			平成25年度	8 人	0 人	・一身上の都合(1人)・経済的理由(1人)・修学意欲の低下(1人)・進路変更(2人)・進路変更(就職)(1人)・進路変更(他の教育機関への入学・転学・編入学)(1人)・除籍(1人)	
			平成26年度	0 人	0 人		
平成25年度 入学者	195 人	5 人	平成25年度	5 人	0 人	・一身上の都合(1人)・家庭の事情(1人)・進路変更(他の教育機関への入学・転学・編入学)(1人)・体調不良(1人)・除籍(1人)	2.6 %
			平成26年度	0 人	0 人		
平成26年度 入学者	183 人	0 人	平成26年度	0 人	0 人		0.0 %
合 計	762 人	43 人					5.6 %

(注)・ 数字は、平成26年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・ 「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成26年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

## 2 授業科目の概要

<動物看護学部 動物看護学科>

### (1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
人文と社会	生活と哲学	2・3前		2		0 +						兼 1 専任教員（教授）退職により、担当を兼任講師に変更（26） 担当 関 正勝（兼任講師）（26）
	生活と法律	1前		2								兼 1
	生命倫理学	2・3後	2			0 +						兼 1 専任教員（教授）退職により、担当を兼任講師に変更（26） 担当 関 正勝（兼任講師）（26）
	芸術と表現	2・3前		2								兼 1
	文学と人間	2・3後		2				1				
	心理学入門	2・3前		2		1						
	生活と経済	1前		2								
	生活と社会	2・3後		2				1				
	動物とジャーナリズム	1後		2								兼 1 新規開講科目（26） 担当 仁科 邦男（兼任講師）（26）
	キャリアマネジメント入門 キャリアマネジメント演習	2後 3前		2 1						1 1		
自然と環境	自然科学	1前		2		0 +						兼 1 専任教員（准教授）就任辞退により、担当を兼任講師に変更（26） 担当 石川 牧子（兼任講師）（26）
	環境科学	2後		2		0 +						専任教員（准教授）就任辞退 「後任未定」平成26年度後期授業開始前に専任教員採用予定（26）
	基礎生物学	1後		2		0 +		1				専任教員（教授）就任辞退により、担当を専任教員（教授）に変更（22） 担当 鎌田 壽彦（教授） 平成21年1月 AC教員審査済 判定 可（22）  教員負担軽減のため、担当を新規採用の専任教員（講師）に変更（26） 担当 茂木 千恵（講師） 平成26年1月 AC教員審査済 判定 可（26）
	基礎化学	1後		2		0 +						専任教員（准教授）就任辞退 「後任未定」平成26年度後期授業開始前に専任教員採用予定（26）
	基礎生化学	1後		2		1						専任教員（教授）退職により、担当を変更（26） 担当 小黒 美枝子（教授）（26）
言語・情報・スポーツ	イングリッシュスキルズ（基礎） A～H	1前	2				1			1		兼 1 教育課程の充実を図るため科目名を変更（26）
	イングリッシュスキルズ（応用） A～H	1後	2				1			1		兼 1 教育課程の充実を図るため科目名を変更（26）
	フランス語入門	1後		2								兼 2 教育効果を高めるため、兼任講師を追加（26） 担当 白川 理恵（兼任講師）（26）
	情報リテラシ（基礎）	1前	1					1				
	情報リテラシ（応用）	1後	1					1				
	文章作法入門	2前		2						1		
	健康とスポーツ	2前		2								兼 1 兼任講師就任辞退により科目担当者を変更（25） 担当 中山 多美（兼任講師）（25）
	健康とスポーツ実技	3前後		1								兼 1 兼任講師就任辞退により科目担当者を変更（25） 前期担当 中山 多美（兼任講師）（25） 後期担当 足立 晃子（兼任講師）（25）  兼任講師退任により科目担当者を変更（26） 前期・後期担当 中山 多美（兼任講師）（26）

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門 教育 科目	生命科学概論	1前	2			1						専任教員（教授）就任辞退により、担当を専任教員（教授）に変更（22） 担当 鎌田壽彦（教授） 平成21年1月 AC教員審査済 判定 可（22）
	動物看護学概論	1後	2			1						教育効果を高めるため、新規採用の専任教員（教授）2名を追加（26） 担当 林 一彦（教授） 平成26年1月 AC教員審査済 判定 可（26）  担当 今村 伸一郎（教授） 平成26年1月 AC教員審査済 判定 可（26）
	動物形態学	1前	2			3 +						
	動物生理学	2前	2			1						専任教員（教授）就任辞退により、担当を専任教員（教授）に変更（22） 担当 鎌田壽彦（教授） 平成21年1月 AC教員審査済 判定 可（22）
	解剖生理学実習	2後	1			2				4	兼 1	兼任講師就任辞退により科目担当者を変更（24） 担当 須藤 大輔（兼任講師）（24）  兼任講師就任辞退により科目担当者を変更（25） 担当 高柳 信子（兼任講師）（25）  教育効果を高めるため、専任教員（教授）2名を追加（26） 担当 今村 伸一郎（教授） 平成26年1月 AC教員審査済 判定 可（26）  担当 二宮 博義（教授）（26）  兼任講師 1名退任 担当 杉浦 陽介（26）
	動物生化学	2前	2			1						兼 1 教育効果を高めるため、開講時期を後期から前期へ変更（23）
	動物薬理学	2前 2後	2									
	動物生態学	2後	2			+			1			教員負担軽減のため、担当を新規採用の専任教員（講師）に変更（26） 担当 茂木 千恵（講師） 平成26年1月 AC教員審査済 判定 可（26）
	動物行動学	2前	2			0 +			1			専任教員（教授）就任辞退により、担当を兼任講師に変更（23） 担当 田中智夫（兼任講師）（23）  教育効果を高めるため、担当を新規採用の専任教員（講師）に変更（26） 担当 茂木 千恵（講師） 平成26年1月 AC教員審査済 判定 可（26）
	動物遺伝学	2後	2			0 +					兼 1	専任教員（教授）就任辞退により、担当を兼任講師に変更（22） 担当 東條英昭（兼任講師）  兼任講師就任辞退により、科目担当者を変更（24） 担当 寺内聖治（兼任講師）（24）
	病理学	2後	2			2 +						教育効果を高めるため、新規採用の専任教員（教授）を追加（26） 担当 林 一彦（教授） 平成26年1月 AC教員審査済 判定 可（26）
	動物人間関係学	2後 2前	2								兼 1	教育効果を高めるため、開講時期を前期から後期へ変更（23）
サイエンスイングリッシュ	3前	2			1							



科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考			
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門 教育 科目	動物 看護 学 科 目 群	動物臨床看護学（基礎）	1前	2			1	1					担当 小方 宗次（教授）職位昇格のため (26) 授業運営上の理由により、担当を変更 担当 花田 道子（准教授） (26)	
		動物臨床看護学（基礎）実習	1通	2			1	1	1 2 1	1	4	兼 1	教員組織および教育課程の充実を図るため、兼任講師から専任教員（講師）として新規採用（23） 担当 花田 道子（講師） 平成23年1月 AC教員審査済 判定 可（23）  教員組織および教育課程の充実を図るため、兼任教員1名を追加（25） 担当 尾崎 明恵（兼任講師） (25)  教員組織の編成のため、専任教員（教授）と専任教員（助教）1名を交代（26） 担当 鈴木 友子（助教） (26)	
		動物臨床看護学（内科）	2前	2			2							専任教員（教授）退職により、担当変更 担当 小方 宗次（教授） (26)
		動物臨床看護学（内科）実習	2通	2			1 2	1		1	4			専任教員（教授）退職により、担当変更 担当 花田 道子（准教授） (26)
		動物臨床看護学（外科）	3前	2			1 4	0 4		1				専任教員（教授）の学部長業務増加による負担軽減のため、専任教員（准教授）を新規採用し、担当変更（25） 担当 武藤真（准教授） 平成25年1月 AC教員審査済 判定 可（25）  担当 武藤 真（教授）職位昇格のため (26)
		動物臨床看護学（外科）実習	3通	2			1 4	0 4		1	4	兼 1		専任教員（教授）の学部長業務増加による負担軽減のため、専任教員（准教授）を新規採用し、担当変更（25） 担当 武藤真（准教授） 平成25年1月 AC教員審査済 判定 可（25）  担当 武藤 真（教授）職位昇格のため (26)
		動物臨床看護学（総合）	4前		2		2						兼 1	専任教員（教授）退職により担当変更 担当 小方 宗次（教授） (26)
		動物臨床看護学（総合）実習	4前		1		2 4				4	兼 1		専任教員（教授）退職により担当変更 担当 小方 宗次（教授） (26)
		動物臨床検査学 動物臨床検査学実習	3前 3通	2 2			1 1				1 4	兼 1 兼 1		教育効果を高めるため、兼任講師から新規採用の専任教員（助教）に変更（26） 担当 宮井 紗弥香（助教） 平成26年1月 AC教員審査済 判定 可（26）
		動物医療機器 動物歯科学	2後 3前	2		2	1			1	1			新規開講科目及び専任教員（教授）新規採用（26） 担当 林 一彦（教授） 平成26年1月 AC教員審査済 判定 可（26）
		動物歯科学実習	3後		1		1				4			新規開講科目及び専任教員（教授）新規採用（26） 担当 林 一彦（教授） 平成26年1月 AC教員審査済 判定 可（26）
		ヒトと動物の共通感染症	3後	2			1 2 4				1			教員組織および教育課程の充実を図るため、専任教員（教授）追加採用予定（23） 担当 内田 明彦（教授） 平成23年7月 提出予定（23）  専任教員（教授）1名の就任辞退により新規採用1名（24） 担当 内田 明彦（教授） 平成23年7月 AC教員審査済 判定 可（24）

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門 教育 科目	動物看護学 科目 目 群	動物公衆衛生学	2前						1			兼1 教員組織および教育課程の充実を図るため、専任教員（教授）追加採用予定（23） 担当 内田 明彦（教授） 平成23年7月 提出予定（23）  専任教員（教授）就任辞退および専任教員（教授）判定不可により担当を兼任講師に変更（24） 担当 池田 純子（兼任講師）（24）  教員組織および教育課程の充実を図るため、専任教員（教授）追加採用予定（23） 担当 内田明彦（教授） 平成23年7月 提出予定（23）  専任教員（教授）1名の就任辞退により新規採用1名（24） 担当 内田明彦（教授） 平成23年7月 AC教員審査済 判定 可（24）  兼1 専任教員（教授）退職により、担当を兼任講師に変更（26） 担当 川上 静夫（兼任講師）（26）  兼1 教員組織および教育課程の充実を図るため、兼任教員1名を追加（25） 担当 大島誠之助（兼任講師）（25）  専任教員（教授）退職により、担当を兼任講師に変更（26） 担当 大島誠之助（兼任講師）（26）  兼1 教員組織および教育課程の充実を図るため、兼任教員1名を追加（25） 担当 大島誠之助（兼任講師）（25）  専任教員（教授）退職により、担当を兼任講師に変更（26） 担当 大島誠之助（兼任講師）（26）  兼1 兼1 教員組織および教育課程の充実を図るため、専任教員（講師）1名を追加（23） 担当 花田道子（講師） 平成23年1月 AC教員審査済 判定 可（23）  教育効果を高めるため、専任教員（講師）から専任教員（教授）へ交代（26） 担当 今村 伸一郎（教授）（26）
		微生物学	3前	2	2		0 2 4					
		血液学	3後		2		1					
		寄生虫学	3前		2		1 2 4					
		小動物放射線学	3後	2			1					
		動物臨床繁殖学	3後		2		0 4					
		小動物栄養学	3前	2			0 4					
		小動物臨床栄養学	3後		2		0 4					
		リハビリテーション論	3前		2							
		動物リハビリテーション	4前		2							
動物病院実習	3前後	1			2 4	1	1 2 4	0 4				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	動物応用科目群											
	コンパニオンアニマルケア（グルーミング）論	1前	2						1		兼 1	教育効果を高めるため、兼任講師1名を専任教員（助教）に変更（26） 担当 福山 貴昭（助教） 平成26年1月 AC教員審査済 判定 可（26）
	コンパニオンアニマルケア（グルーミング基礎）実習	1前後	1						1	4	兼 1	教育効果を高めるため、兼任講師1名を専任教員（助教）に変更（26） 担当 福山 貴昭（助教） 平成26年1月 AC教員審査済 判定 可（26）
	コンパニオンアニマルケア（グルーミング応用）実習	2前後	1						1	4		教育効果を高めるため、兼任講師から専任教員（助教）に変更（26） 担当 福山 貴昭（助教） 平成26年1月 AC教員審査済 判定 可（26）
	コンパニオンアニマルケア（グルーミング総合）実習	4前 4後		1					1	4		教育課程の充実を図るため、開講時期を追加（25）  教育効果を高めるため、兼任講師から専任教員（助教）に変更（26） 担当 福山 貴昭（助教） 平成26年1月 AC教員審査済 判定 可（26）
	イヌの特性論	3前	2			1			1			教育効果を高めるため、兼任講師から専任教員（助教）に変更（26） 担当 福山 貴昭（助教） 平成26年1月 AC教員審査済 判定 可（26）
	イヌの行動学	4前		2						1		
	イヌの行動学演習	4後		1						1		
	コンパニオンドッグトレーニング	4後		2								
	ジェロントロジーとドッグウォーキング	3後		2							兼 1 兼 2	新規開講科目（26） 担当 岡 浩一朗（兼任講師） 担当 山羽 教文（兼任講師） （26）
	ネコの特性論	4前		2							兼 1	
	コンパニオンバードの特性論	4前		2			1				兼 1	
	保全生物学	4前		2		1						専任教員（教授）就任辞退により、担当を専任教員（教授）に変更（23） 担当 天野 卓（教授） 平成22年9月 AC教員審査済 判定 可（23）
	実験動物学	4後		2		2	4					教育効果を高めるため、新規採用の専任教員（教授）を追加（26） 担当 今村 伸一郎（教授） 平成26年1月 AC教員審査済 判定 可（26）
	産業動物学	4前		2		1						専任教員（教授）退職のため、担当の変更（26） 担当 鎌田 壽彦（教授）（26）
	野生動物学	4後		2		1						専任教員（教授）就任辞退により、担当を専任教員（教授）に変更（23） 担当 天野 卓（教授） 平成22年9月 AC教員審査済 判定 可（23）
	生物統計学	4前		2		1						専任教員（教授）就任辞退により、担当を専任教員（教授）に変更（23） 担当 天野 卓（教授） 平成22年9月 AC教員審査済 判定 可（23）
バイオテクノロジー	4後		2		1							
動物愛護と関連法規の歴史	3後	2			1	0	4			兼 1	担当 會田 保彦（教授）職位昇格のため（26）	
社会調査法	3後		2			1						
動物災害・危機管理	4後		2		1	0	4				担当 會田 保彦（教授）職位昇格のため（26）	
ペットビジネスマネジメント	4後		2						1	兼 1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門 教育科目	動物介在福祉科目群	社会福祉論	3前	2							兼 1	兼 1 専任教員（准教授）退職により担当変更（26） 担当 山川 伊津子（助教）（26）  教育効果を高めるため兼任講師を追加（26） 担当 濱田 清吉（兼任講師）（26）  兼任講師就任辞退により、科目担当者を変更（25） 担当 宮武 正明（兼任講師）（25）  科目名を変更（26）  兼 1 担当 會田 保彦（教授）職位昇格のため（26）  兼 1  兼 1
		障害者福祉論	3後	2			0 +		1			
		児童福祉論	3後	2								
		臨床心理学	3前	2		1						
		障害者心理ケア論	4前	2					1			
		障害者心理ケア論演習	4後	1					1			
		高齢者心理ケア論	3後	2		1			1			
		子（ <del>供</del> ）どもの発達と心理ケア	3後	2					1			
		カウンセリング論	4前	2		1					兼 1	
		ペットロス論	4前	2				1		1		
	動物福祉とボランティア	4前	2			1	0 +					
	アニマルアシステッドセラピー論	3前	2			1		1		兼 1		
	アニマルアシステッドセラピー演習	3後	1					1	1			
	アニマルアシステッドセラピー実習	3後	1					1	1	4		
	アシスタンスドッグ論	4前	2							兼 1		
	アシスタンスドッグ演習	4後	1						2			
	共通科目群	アッセンブリーアワーⅠ（動物と看護）	1通	1				0 +		1		担当授業数均等化のため、担当を専任教員（助教）に変更（26） 担当 大橋 由紀子（助教）（26）
		アッセンブリーアワーⅡ（動物と環境）	2通	1				1		1		教育効果を高めるため、専任教員（教授）を追加（26） 担当 武藤 眞（教授）（26）  授業運営上の理由により、担当の変更（26） 担当 西村 信子（講師）（26）
		アッセンブリーアワーⅢ（動物と社会）	3通	1				1		1		教員組織および教育課程の充実を図るため、専任教員（講師）1名を追加（23） 担当 花田 道子（講師） 平成23年1月 AO教員審査済 判定 可（23）  授業運営上の理由により、専任教員（助教）に変更（26） 担当 鈴木 友子（26）（26）
		インターンシップ	3・4前後	1			1		0 +	1		新規開講科目（26） 担当 二宮 博義（教授） 担当 島森 尚子（准教授） 担当 新島 典子（准教授） 担当 茂木 千恵（講師）（26）
	アドバンストイングリッシュ	3通	2		1	2	1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備 考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目 専門応用科目 共通科目群	卒業論文	4通	6			14 13 14 13	3 6 5	5 3	6 5		専任教員（教授）就任辞退により、担当を専任教員（教授）に変更（23） 担当 天野卓（教授） 平成22年9月 AC教員審査済 判定 可（23）  および専任教員（教授）追加採用予定（23） 担当 内田明彦（教授） 平成23年7月 提出予定（23）  専任教員（教授）新規採用（24） 担当 内田明彦（教授） 平成23年7月 AC教員審査済 判定 可（24）  専任教員（准教授）新規採用（25） 担当 武藤真（准教授） 平成25年1月 AC教員審査済 判定 可（25）  教育効果を高めるため、担当を追加（26） 担当 花田 道子（准教授） 平成25年7月 AC教員審査済 判定 可（26）  担当 林 一彦（教授） 平成26年1月 AC教員審査済 判定 可（26）  担当 今村 伸一郎（教授） 平成26年1月 AC教員審査済 判定 可（26）  担当 茂木 千恵（講師） 平成26年1月 AC教員審査済 判定 可（26）  担当 福山 貴昭（助教） 平成26年1月 AC教員審査済 判定 可（26）  担当 岡 勝巖（講師）（26）

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て（兼任、兼任教員が担当する科目を含む。）を黒字で記載してください。前年度報告時（平成25年度に認可された大学等は設置認可時）より変更されているものは赤字修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
  - ・ なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 兼任、兼任の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
  - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについて「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。（今後審査を受けるには、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。）
  - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等（平成19年度以前）についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば赤字で見え消し修正をしてください。
  - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

## (2) 授業科目数

認可時の計画				変更状況				備 考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
42	58	0	100	42	63	0	105	
				[ - ]	[ 5 ]	[ - ]	[ 5 ]	

- (注) ・ 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する（資格に関する課程別課程としている授業科目については算入する必要はありません。）とともに、[ ]内に、届出時のからの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。  
・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					

- (注) ・ 設置認可時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし
------

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0.00}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位までを記入してください。

### 3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	南大沢キャンパス (7,827.88 m <sup>2</sup> ) 渋谷キャンパス (1,237.08 m <sup>2</sup> ) 教育環境整備のため、 隣地を購入した。 (24)			
	校舎敷地	8,139.32 m <sup>2</sup>	925.64 m <sup>2</sup>	1,323.80 m <sup>2</sup>	10,388.76 m <sup>2</sup>				
	運動場用地	1,065.39 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	1,065.39 m <sup>2</sup>				
	小 計	9,204.71 m <sup>2</sup>	925.64 m <sup>2</sup>	1,323.80 m <sup>2</sup>	11,454.15 m <sup>2</sup>				
	そ の 他	12,540.29 m <sup>2</sup> 1,398.71 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	12,540.29 m <sup>2</sup> 1,398.71 m <sup>2</sup>				
合 計	21,745.00 m <sup>2</sup> 10,603.42 m <sup>2</sup>	925.64 m <sup>2</sup>	1,323.80 m <sup>2</sup>	23,994.44 m <sup>2</sup> 12,852.86 m <sup>2</sup>					
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	ヤマザキ動物専門学校 (収容定員:720名、面 積基準1900m <sup>2</sup> )と共用 教育環境整備のため、 拡充した校地に管理棟 を設置した (25)				
		9,276.58 m <sup>2</sup> 9,181.62 m <sup>2</sup>	2,326.91 m <sup>2</sup>	3,202.43 m <sup>2</sup>		14,805.92 m <sup>2</sup> 14,710.96 m <sup>2</sup>			
		(9,181.62 m <sup>2</sup> )	(2,326.91 m <sup>2</sup> )	(3,202.43 m <sup>2</sup> )		(14,710.96 m <sup>2</sup> )			
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 語学学習施設と情報処 理学習施設の補助職員 は兼任			
	8 室	4 室	18 室	2室 (補助職員 2人)	1室 (補助職員 1人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		大学全体			
	動物看護学部 動物看護学科			33 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機 械 ・ 器 具	標 本	大学開学までに視聴覚 資料が増加したため。 (22) 学生の学修環境を改善 するため、図書、視聴 覚資料及び標本を増加 した。(23) 学生の学修環境を改善 するため、図書、視聴 覚資料、機械・器具及 び標本を増加した。 (24) 学生の学修環境を改善 するため、図書、学術 雑誌、視聴覚資料及び 機械・器具を増加し た。(25) 学生の学修環境を改善 するため、図書、視聴 覚資料、機械・器具及 び標本を増加した。 (26)	
		〔うち外国書〕	〔うち外国書〕	電子ジャーナル					点
	冊	種	〔うち外国書〕	点	点	点			
	動物看護学部・ 動物看護学科	[3,371] [3,036] [3,005] 33,426 [2,981]	185 [50] 66 [30]				21 [16] 9 [7]		585 493 472 346 336
	計	(33,299 [3,469]) (32,636 [3,371]) (31,524 [3,036]) (30,876 [2,944]) (30,093 [2,648])	(185 [50]) (66 [30])	(21 [16]) (9 [7])	(620) (585) (493) (472) (346) (336)	(9,970) (9,816)	(232) (222) (197) (179)		
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数				
	420.00 m <sup>2</sup>		64		40,000				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
	558.40 m <sup>2</sup>		-						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	教育環境の充実を図る ため、設備購入費を増 額。(23)
		教員1人当たり研究費等	300千円	300千円	図書購入費	32,000千円	3,000千円	3,000千円	
		共同研究費等	3,000千円	3,000千円	設備購入費	137,126千円 133,296千円	119,803千円 104,941千円	3,000千円	
	学生1人当 り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	1,920千円	1,620千円	1,620千円	1,620千円	- 千円	- 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、雑収入、資産運用収入等						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
  - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成26年5月1日現在の数値を記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(26)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。



#### 4 既設大学等の状況

大学の名称	ヤマザキ動物看護短期大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
動物看護学科	3	—	—	—	短期大学士 (動物看護学)	—	平成16年	東京都八王子市 南大沢4-7-2	平成24年10月 廃止認可

(注) ・ 本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が設置している全ての大学（学部、学科）、大学院（専攻）及び短期大学（学科）（AC対象学部等含む）について、それぞれの学校種ごとに、平成26年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。（ただし、専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。）

- ・ 「平均定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点第2位まで（小数点第3位を切り捨て）を、学科（短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程）単位で記入してください。
- ・ 学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員と収容定員は「—」とし、「備考」に「平成〇年より学生募集停止」と記入してください。
- ・ 大学、短期大学においては学科単位（短期大学において専攻課程を置くときは専攻課程単位）、大学院においては専攻単位で記入してください。

## 5 教員組織の状況

### <動物看護学部 動物看護学科>

#### (1) 担当教員表

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	教授(副学長)	山崎 薫 (59)	平成22年4月	イヌの特性論※ アニマルアシストセラピー論※		教授(学長)	山崎 薫 (62)	平成25年4月		平成25年4月 学長就任 (25)
専任	教授(学部長)	若尾 義人 (65)	平成22年4月	動物看護学概論 動物臨床看護学(外科)※ 動物臨床看護学(外科)実習※ 動物臨床看護学(総合)※ 動物臨床看護学(総合)実習※ インターンシップ 卒業論文	専任	准教授	武藤 真 (65)	平成25年4月	動物臨床看護学(外科)※ 動物臨床看護学(外科)実習※ 卒業論文	平成25年4月 学部長業務増加による負担軽減のため、平成25年度より担当者変更 (25) 平成25年1月 AC教員審査済
					専任	教授	若尾 義人 (68)	平成22年4月	動物看護学概論 動物臨床看護学(総合)※ 動物臨床看護学(総合)実習※ インターンシップ 卒業論文	平成25年4月 学部長業務増加による負担軽減のため、担当科目を削減 (25)
専任	教授(学科長)	二宮 博義 (66)	平成22年4月	動物形態学 動物臨床看護学(基礎)※ 動物臨床看護学(基礎)実習 実験動物学 動物病院実習 卒業論文	専任	准教授	花田 道子 (64)	平成23年4月	動物臨床看護学(基礎)※	平成26年4月 教員負担軽減のため、担当者を変更 (26)
					専任	助教	鈴木 友子 (42)	平成23年4月	動物臨床看護学(基礎)実習	平成26年4月 教員負担軽減のため、担当者を変更 (26)
					専任(副学部長)	教授	二宮 博義 (70)	平成22年4月	動物形態学 実験動物学 動物病院実習 卒業論文 解剖生理学実習 アドバンストイングリッシュ	平成26年4月 教育効果を高めるため、担当科目を変更 副学部長就任 (26)
専任	教授	関 正勝 (71)	平成23年4月	生活と哲学 生命倫理学 卒業論文	兼任(副学部長)	講師	関 正勝 (75)	平成26年4月	生活と哲学 生命倫理学	平成26年3月 関 正勝 定年退職 平成26年4月 兼任講師として採用 副学長就任 (26)
専任	教授	阿部 又信 (70)	平成22年4月	基礎生化学 小動物実養学 小動物臨床実養学 卒業論文	兼任	講師	大島 誠之助 (68)	平成25年4月	小動物実養学 小動物臨床実養学	平成25年4月 教員組織および教育課程の充実を図るため、兼任教員1名を追加 (25) 平成26年3月 阿部 又信 定年退職 (26)
					専任	教授	小黒 美枝子 (62)	平成22年4月	基礎生化学	平成26年3月 阿部 又信 定年退職のため、担当者変更 (26)
専任	教授	石田 恒雄 (70)	平成22年4月	自然科学 環境科学 基礎化学	兼任	講師	石川 牧子 (38)	平成26年4月	自然科学	平成26年3月 石田 恒雄 定年退職 新規採用の兼任講師に変更 (26)
							後任未定		環境科学 基礎化学	平成26年3月 石田 恒雄 定年退職 平成26年3月 専任教員(准教授) 就任辞退 「後任未定」 平成26年度後期授業開始前に専任教員採用予定 (26)

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	教授	小倉 啓子 (68)	平成22年4月	心理学入門 臨床心理学 高齢者心理ケア論 カウンセリング論※ 卒業論文						
専任	教授	山田 隆紹 (67)	平成22年4月	動物臨床看護学(内科)※ 動物臨床看護学(内科)実習※ 動物臨床看護学(総合)※ 動物臨床看護学(総合)実習※ 卒業論文	専任	教授	小方 宗次 (69)	平成22年4月	動物臨床看護学(内科)※ 動物臨床看護学(総合)※ 動物臨床看護学(総合)実習※	平成26年3月 山田 隆紹 定年退職のため、 担当者変更 (26)
					専任	准教授	花田 道子 (64)	平成23年4月	動物臨床看護学(内科)実習※	平成26年3月 山田 隆紹 定年退職のため、 担当者変更 (26) 平成25年7月 AC教員審査済
専任	教授	川上 静夫 (66)	平成23年10月	動物生態学 動物臨床繁殖学 産業動物学 卒業論文	専任	講師	茂木 千恵 (37)	平成26年4月	動物生態学	平成26年3月 川上 静夫 定年退職のため、 担当者変更 (26) 平成26年1月 AC教員審査済
					兼任	講師	川上 静夫 (70)	平成26年10月	動物臨床繁殖学	平成26年3月 川上 静夫 定年退職のため、 平成26年10月 兼任講師として採用 (26)
					専任	教授	鎌田 壽彦 (69)	平成22年4月	産業動物学	平成26年3月 川上 静夫 定年退職のため、 担当者変更 (26)
専任	教授	東條 英昭 (66)	平成22年4月	基礎生物学 生命科学概論 動物生理学 動物遺伝学 卒業論文	専任	教授	鎌田 壽彦 (65)	平成22年4月	基礎生物学 生命科学概論 動物生理学 卒業論文	平成22年3月 東條 英昭(教授) 就任辞退による 担当者の変更 (22)
					兼任	講師	東條 英昭 (67)	平成23年10月	動物遺伝学	平成23年10月 東條 英昭(教授) 就任辞退 兼任講師として採用 (23)
					兼任	講師	寺内 聖治 (54)	平成24年10月	動物遺伝学	平成24年10月 東條 英昭(兼任) 就任辞退 により担当者の変更 (24)
					専任	講師	茂木 千恵 (37)	平成26年4月	基礎生物学	平成26年4月 教員負担軽減のため、担当科目 を変更 (26) 平成26年1月 AC教員審査済
専任	教授	堀尾 政博 (60)	平成24年4月	ヒトと動物の共通感染症※ 微生物学 寄生虫学 卒業論文	専任	教授	内田 明彦 (64)	平成24年4月	ヒトと動物の共通感染症※ 寄生虫学 卒業論文	平成24年3月 堀尾政博(教授) 就任辞退による 担当者の変更 (24)
					兼任	講師	池田 純子 (52)	平成24年4月	微生物学	
専任	教授	岡崎 登志夫 (59)	平成24年4月	病理学 血液学 動物臨床検査学※ 動物臨床検査学実習※ 卒業論文	専任 (副学 科長)	教授	岡崎 登志夫 (63)			平成26年4月 副学科長就任 (26)
専任	教授	小黒 美枝子 (58)	平成22年4月	動物生化学 サイエンスイングリッシュ バイオテクノロジー 卒業論文	専任	教授	小黒 美枝子 (62)	平成22年4月	動物生化学 サイエンスイングリッ シュ バイオテクノロジー 卒業論文 基礎生化学	平成26年3月 阿部 又信 定年退職のため、 担当科目を追加 (26)
専任	教授	谷口 明子 (51)	平成23年4月	動物臨床看護学(内科)※ 動物臨床看護学(内科)実習※ 小動物放射線学 卒業論文						

認可時の計画				変更状況				備考			
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名	
専任	教授	金子 弥生 (44)	平成23年4月	動物行動学 保全生物学 野生動物学 生物統計学 卒業論文	専任	教授 (学科長)	天野 卓 (68)	平成25年3月	保全生物学 野生動物学 生物統計学 卒業論文	平成23年3月 金子弥生(教授) 就任辞退のため、平成23年度より担当者を変更(23) 平成22年9月 AC教員審査済	
					兼任	講師	田中 智夫 (58)	平成23年4月	動物行動学	平成23年3月 金子弥生(教授) 就任辞退のため、平成23年度より担当者を兼任講師へ変更(23)	
					専任	講師	茂木 千恵 (37)	平成26年4月	動物行動学	平成26年4月 田中 智夫(兼任) 退任により科目担当者を変更(26) 平成26年1月 AC教員審査済	
専任	准教授	會田 保彦 (66)	平成24年10月	動物愛護と関連法規の歴史※ 動物災害・危機管理 動物福祉とボランティア 卒業論文	専任	教授	會田 保彦 (70)		平成26年4月 職位昇格(26)		
専任	准教授	濱田 清吉 (65)	平成24年4月	障害者福祉論 卒業論文	兼任	講師	濱田 清吉 (69)	平成26年10月	障害者福祉論	平成26年3月 濱田 清吉 定年退職 平成26年10月 兼任講師として採用(26)	
					専任	助教	山川 伊津子 (55)	平成23年4月		平成26年10月 教育効果を高めるため、担当者を追加(26)	
専任	准教授	小方 宗次 (65)	平成22年4月	動物臨床看護学(基礎)※ 動物臨床看護学(基礎)実習 アッセンブリーアワーI(動物と看護) 卒業論文	専任	助教	大橋 由紀子 (39)	平成22年4月	アッセンブリーアワーI (動物と看護)	平成26年4月 担当授業数均等化のため、科目担当者を変更(26)	
					専任	教授	小方 宗次 (69)		動物臨床看護学(基礎)※ 動物臨床看護学(基礎)実習 卒業論文 動物臨床看護学(内科)※ 動物臨床看護学(総合)※ 動物臨床看護学(総合)実習※	平成26年3月 山田 隆紹 定年退職のため、担当科目追加(26) 平成26年4月 職位昇格(26)	
専任	准教授	島森 尚子 (54)	平成22年4月	文学と人間 イングリッシュスキルズ(基礎) イングリッシュスキルズ(応用) コンパニオンパードの特性論※ 卒業論文	専任	准教授	島森 尚子 (58)	平成22年4月	文学と人間 イングリッシュスキルズ(基礎) イングリッシュスキルズ(応用) コンパニオンパードの特性論※ 卒業論文 アドバンストイングリッシュ※	平成26年4月 新規開講科目を追加(26)	
専任	准教授	新島 典子 (42)	平成22年4月	生活と社会 社会調査法 ペットロス論※ アッセンブリーアワーII(動物と環境) 卒業論文	専任	准教授	新島 典子 (46)	平成22年4月	生活と社会 社会調査法 ペットロス論※ アッセンブリーアワーII(動物と環境) 卒業論文 アドバンストイングリッシュ※	平成26年4月 新規開講科目を追加(26)	
専任	講師	本田 三緒子 (54)	平成22年4月	動物臨床看護学(外科)※ 動物臨床看護学(外科)実習※ 動物医療機器※ 動物公衆衛生学 アッセンブリーアワーIII(動物と社会) 卒業論文	専任	教授	武藤 真 (66)	平成25年4月		アッセンブリーアワーIII (動物と社会)※	平成26年4月 教育効果を高めるため、担当を2名に変更(26)
					専任	講師	西村 信子 (48)	平成24年10月			
					専任	講師	本田 三緒子 (58)	平成22年4月	動物臨床看護学(外科)※ 動物臨床看護学(外科)実習※ 動物医療機器※ 動物公衆衛生学 卒業論文		平成26年4月 授業運営上の理由により、担当科目を削減(26)

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	講師	岡 勝巖 (45)	平成22年4月	情報リテラン(基礎) 情報リテラン(応用)	専任	講師	岡 勝巖 (49)	平成22年4月	情報リテラン(基礎) 情報リテラン(応用) 卒業論文	平成26年4月 教育効果を高めるため、担当科目を追加 (26)
専任	講師	西村 信子 (44)	平成24年10月	障害者心理ケア論 障害者心理ケア論演習 子供の発達と心理ケア 卒業論文	専任	講師	西村 信子 (48)	平成24年10月	障害者心理ケア論 障害者心理ケア論演習 卒業論文 子(供)どもの発達と心理ケア アセスンフリーアワーⅢ (動物と社会)※	平成26年4月 科目名変更 教育効果を高めるため、担当科目を追加 (26)
専任	講師	川添 敏弘 (40)	平成22年4月	動物臨床看護学(基礎)実習 アニマルアシストセラピー論※ アニマルアシストセラピー演習※ アニマルアシストセラピー実習※ 動物病院実習 卒業論文						
専任	助教	山川 伊津子 (51)	平成23年4月	ペットロス論※ アニマルアシストセラピー演習※ アシスタンスドッグ演習※ 卒業論文	専任	助教	山川 伊津子 (55)	平成23年4月	ペットロス論※ アニマルアシストセラピー演習※ アシスタンスドッグ演習※ 卒業論文 障害者福祉論	平成26年10月 教育効果を高めるため、担当科目を追加 (26)
専任	助教	赤羽根 和恵 (46)	平成23年4月	キャリアマネジメント入門 キャリアマネジメント演習 文章作法入門 ペットビジネスマネジメント※ 卒業論文						
専任	助教	鈴木 友子 (38)	平成23年4月	動物臨床看護学(内科)実習※ 動物医療機器※ ヒトと動物の共通感染症※ 動物病院実習 卒業論文	専任	助教	鈴木 友子 (42)	平成23年4月	動物臨床看護学(内科)実習※ 動物医療機器※ ヒトと動物の共通感染症※ 卒業論文 動物臨床看護学(基礎)実習※ インターンシップ	平成26年4月 教育効果を高めるため、担当科目を変更 (26)
専任	助教	渡邊 由紀子 (35)	平成22年4月	イングリッシュスキルズ(基礎) イングリッシュスキルズ(応用) 卒業論文	専任	助教	大橋 由紀子 (39)	平成22年4月	イングリッシュスキルズ(基礎) イングリッシュスキルズ(応用) 卒業論文 アセスンフリーアワーⅠ (動物と看護)	平成23年4月より改姓 (23) 平成26年4月 担当授業数均等化のため、担当科目を追加 (26)
専任	助教	堀井 隆行 (30)	平成23年4月	イヌの行動学 イヌの行動学演習 アニマルアシストセラピー実習※ アシスタンスドッグ演習※ 卒業論文						

認可時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
					専任	教授	鎌田 壽彦 (69)	平成22年4月	基礎生物学 生命科学概論 動物生理学 卒業論文 産業動物学	平成22年3月 東條英昭(教授) 就任辞退による 担当者の採用 (22)  平成26年3月 川上 静夫 定年退職により 担当科目追加 (26)  平成26年4月 専任教員新規採用のため、担当 科目を削減 (26)
					専任	教授 (学科長)	天野 卓 (71)	平成25年3月	保全生物学 野生動物学 生物統計学 卒業論文	平成23年3月 金子弥生(教授) 就任辞退による 担当者の採用 (23) 平成22年9月AC教員審査済  平成26年4月 学科長就任 (26)
					専任	教授	内田 明彦 (64)	平成24年4月	ヒトと動物の共通感染症 ※ 微生物学 寄生虫学 卒業論文	平成23年7月 教員組織および教育課程の充実 を図るため、専任教員(教授) 追加採用予定 (23) 平成23年7月変更書提出予定
					専任	教授 准教授	武藤 眞 (66)	平成25年4月	動物臨床看護学(外科)※ 動物臨床看護学(外科)実習※ 卒業論文 アッセンブリーアワーⅢ (動物と社会)	平成25年4月 教員組織および教育課程の充実 を図るため、専任教員(准教 授)追加採用 (25) 平成25年1月 AC教員審査済  平成26年4月 職位昇格及び教育効果を高める ため、担当科目追加 (26)
					専任	教授	林 一彦 (66)	平成26年4月	動物形態学 病理学 動物歯科学 動物歯科学実習 卒業論文	平成26年4月 教員組織および教育課程の充実 を図るため、新規採用 (26) 平成26年1月 AC教員審査済
					専任	教授	今村 伸一郎 (54)	平成26年4月	動物形態学 解剖生理学実習 実験動物学 卒業論文  動物病院実習	平成26年4月 教員組織および教育課程の充実 を図るため、新規採用 (26) 平成26年1月 AC教員審査済  教育効果を高めるため、「動物 病院実習」を担当に追加
					専任	講師	茂木 千恵 (37)	平成26年4月	基礎生物学 動物生理学 動物行動学 卒業論文  アドバンストイングリッ シュ	平成26年4月 教員組織および教育課程の充実 を図るため、新規採用 (26) 平成26年1月 AC教員審査済  教育効果を高めるため、「アド バンストイングリッシュ」を担 当に追加
					専任	助教	福山 貴昭 (40)	平成26年4月	コンパニオンアニマルケ ア(グルーミング)論※ コンパニオンアニマルケ ア(グルーミング基礎)実 習※ コンパニオンアニマルケ ア(グルーミング応用)実 習 コンパニオンアニマルケ ア(グルーミング総合)実 習 イヌの特性論※ 卒業論文	平成26年4月 教員組織および教育課程の充実 を図るため、兼任講師から専任 教員に新規採用 (26) 平成26年1月 AC教員審査済
					専任	助教	宮井 紗弥香 (29)	平成26年4月	動物臨床検査学実習	平成26年4月 教員組織および教育課程の充実 を図るため、新規採用 (26) 平成26年1月 AC教員審査済

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	岡崎 登志夫 (59)	平成23年10月	病理学	専任 (副学科長)	教授	岡崎 登志夫 (63)	平成24年4月	病理学 血液学 動物臨床検査学※ 動物臨床検査学実習※ 卒業論文	平成24年4月 専任教員(教授)として採用 (24) 平成26年4月 副学科長就任(26)
兼任	講師	矢島 隆志 (65)	平成22年4月	生活と経済						
兼任	講師	斉藤 康介 (59)	平成23年4月	芸術と表現						
兼任	講師	渋谷 寛 (50)	平成22年4月	生活と法律 動物愛護と関連法規の歴史※						
兼任	講師	米金 孝雄 (48)	平成22年10月	フランス語入門						
兼任	講師	早川 洋子 (44)	平成23年4月	健康とスポーツ 健康とスポーツ実技	兼任	講師	中山 多美 (49)	平成25年4月	健康とスポーツ	平成25年3月 早川洋子(兼任)就任辞退により 科目担当者を変更(25)
					兼任	講師	中山 多美 (49) <del>足立 晃子 (44)</del>	平成25年10月	健康とスポーツ実技	平成25年3月 早川洋子(兼任)就任辞退により 科目担当者を変更(25) 平成26年10月 足立 晃子(兼任)退任により 科目担当者を変更(26)
兼任	講師	加藤 剛 (36)	平成22年4月	イングリッシュスキルズ(基礎) イングリッシュスキルズ(応用)						
兼任	講師	早田 由貴子 (60)	平成22年4月	コンパニオンアニマルケア(グルーミング)論※ コンパニオンアニマルケア(グルーミング基礎)実習※ ネコの特徴論						
兼任	講師	山崎 恵子 (56)	平成24年4月	アニマルアシステッドセラピー論※						
兼任	講師	尾崎 明恵 (55)	平成23年10月	動物薬理学 動物臨床看護学(外科)実習※	兼任	講師	尾崎 明恵 (58)	平成23年10月	動物薬理学 動物臨床看護学(外科)実習※ 動物臨床看護学(基礎)実習※	平成25年4月 教員組織および教育課程の充実を図るため、担当科目を追加 (25)
兼任	講師	潮見 泰蔵 (54)	平成24年4月	リハビリテーション論						
兼任	講師	山本 央子 (51)	平成25年4月	コンパニオンドッグトレーニング						
兼任	講師	安藤 孝敏 (50)	平成23年4月	動物人間関係学						
兼任	講師	井上 留美 (44)	平成25年4月	動物リハビリテーション						
兼任	講師	高柳 友子 (43)	平成25年4月	アシスタンスドッグ論						
兼任	講師	前原 晴彦 (44)	平成25年4月	ペットビジネスマネジメント※						
兼任	講師	菅野 晶子 (38)	平成24年4月	動物臨床看護学(総合)※ 動物臨床看護学(総合)実習※ 動物臨床検査学実習※						
兼任	講師	小嶋 篤史 (36)	平成25年4月	コンパニオンパードの特徴論※						

認可時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
兼任	講師	福山 貴昭 (36)	平成22年4月	コンパニオンアニマルケア(グルーミング)論※ コンパニオンアニマルケア(グルーミング基礎)実習※ コンパニオンアニマルケア(グルーミング応用)実習 コンパニオンアニマルケア(グルーミング総合)実習 イヌの特性論※	専任	助教	福山 貴昭 (40)	平成26年4月	コンパニオンアニマルケア(グルーミング)論※ コンパニオンアニマルケア(グルーミング基礎)実習※ コンパニオンアニマルケア(グルーミング応用)実習 コンパニオンアニマルケア(グルーミング総合)実習 イヌの特性論※ 卒業論文	平成26年4月 教員組織および教育課程の充実を図るため、兼任講師から専任教員に新規採用(26) 平成26年1月 AC教員審査済
兼任	講師	八木原 怜子 (33)	平成24年4月	動物臨床検査学※ 動物臨床検査学実習※	兼任	講師	八木原 怜子 (37)	平成24年4月	動物臨床検査学※	平成26年4月 専任教員(助教)新規採用のため、担当科目を削減(26)
兼任	講師	秋元 弘子 (52)	平成24年4月	社会福祉論						
兼任	講師	齋藤 知子 (43)	平成24年10月	児童福祉論	兼任	講師	宮武 正明 (68)	平成25年10月	児童福祉論	平成25年3月 齋藤知子(兼任)就任辞退により科目担当者を変更(25)
兼任	講師	大谷 伸代 (42)	平成23年10月	解剖生理学実習※	兼任	講師	須藤 大輔 (32)	平成24年10月	解剖生理学実習※	平成24年3月 大谷伸代(兼任)就任辞退により科目担当者を変更(24)
					兼任	講師	高柳 信子 (39)	平成25年10月	解剖生理学実習※	平成25年3月 須藤大輔(兼任)就任辞退により科目担当者を変更(25)
					専任(副学部長)	教授	二宮 博義 (70)		解剖生理学実習※	平成26年4月 教育効果を高めるため、専任教員(教授)を追加(26)
兼任	講師	杉浦 陽介 (33)	平成23年10月	解剖生理学実習※	専任	教授	今村 伸一郎 (54)	平成26年4月	解剖生理学実習※	平成26年3月 杉浦 陽介(兼任)退任により科目担当者を変更(26) 平成26年1月 AC教員審査済
兼任	講師	岡藤 円春 (27)	平成25年4月	カウンセリング論※	兼任	講師	坂牧 円春 (30)	平成25年4月	カウンセリング論※	平成25年4月より改名(25)
兼任	講師	花田 道子 (60)	平成22年4月	動物臨床看護学(基礎)実習	専任	准教授 講師	花田 道子 (64)	平成25年10月	動物臨床看護学(基礎)実習 動物病院実習 インターンシップ 動物臨床看護学(基礎) 動物臨床看護学(内科)実習 卒業論文	平成23年4月 教員組織および教育課程の充実を図るため、兼任講師から専任教員(講師)として新規採用(23) 平成23年1月 AC教員審査済 平成25年10月 職位昇格 平成25年7月 AC教員審査済 平成26年4月 負担軽減のため、担当科目削減 教育効果を高めるため、担当科目追加(26)
					兼任	講師	東條 英昭 (66)	平成23年10月	動物遺伝学	平成22年3月 東條英昭(教授)就任辞退による兼任への変更(22) 平成24年3月 東條英昭(兼任)就任辞退(24)
					兼任	講師	田中 智夫 (58)	平成23年4月	動物行動学	平成23年3月 金子弥生(教授)就任辞退により科目担当者を変更(23) 平成26年3月 田中 智夫(兼任)就任辞退(26)



認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
					兼任	講師	池田 純子 (52)	平成24年4月	微生物学	平成24年3月 堀尾政博(教授) 就任辞退により 科目担当者を変更(24)
					兼任	講師	須藤 大輔 (32)	平成24年10月	解剖生理学実習	平成24年3月 大谷伸代(兼任) 就任辞退により 科目担当者を変更(24)  平成25年3月 須藤大輔(兼任) 就任辞退 (25)
					兼任	講師	寺内 聖治 (54)	平成24年10月	動物遺伝学	平成24年3月 東條英昭(兼任) 就任辞退により 科目担当者を変更(24)
					兼任	講師	大島 誠之助 (68)	平成25年4月	小動物栄養学 小動物臨床栄養学	平成25年4月 教員組織および教育課程の充実 を図るため、兼任教員1名を追加 (25)
					兼任	講師	中山 多美 (49)	平成25年4月	健康とスポーツ 健康とスポーツ実技	平成25年3月 早川洋子(兼任) 就任辞退により 科目担当者を変更(25)
					兼任	講師	足立 晃子 (44)	平成25年10月	健康とスポーツ実技	平成25年3月 早川洋子(兼任) 就任辞退により 科目担当者を変更(25)  平成26年3月 足立 晃子(兼任) 退任(26)
					兼任	講師	宮武 正明 (68)	平成25年10月	児童福祉論	平成25年3月 齋藤知子(兼任) 就任辞退により 科目担当者を変更(25)
					兼任	講師	高柳 信子 (39)	平成25年10月	解剖生理学実習※	平成25年3月 須藤大輔(兼任) 就任辞退により 科目担当者を変更(25)
					兼任	講師	仁科 邦男 (66)	平成26年10月	動物とジャーナリズム	平成26年10月 新規開講科目のため、新規採用 (26)
					兼任	講師	石川 牧子 (38)	平成26年4月	自然科学	平成26年3月 石田 恒雄 定年退職のため、 新規採用(26)
					兼任	講師	白川 理恵 (45)	平成26年10月	フランス語入門	平成26年10月 教育効果を高めるため、新規採 用(26)

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
					兼任	講師	岡 浩一朗 (44)	平成26年10月	ジェロントロジーとドッグウォーキング	平成26年10月 新規開講科目のため、新規採用(26)
					兼任	講師	山羽 教文 (42)	平成26年10月	ジェロントロジーとドッグウォーキング	平成26年10月 新規開講科目のため、新規採用(26)

- (注) ・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。  
 なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈〇〇学部 △△学科〉の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。
- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
  - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
  - ・ 年齢は、「設置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢を、「変更状況」には平成26年5月1日現在の満年齢を記入してください。
  - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
  - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
  - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月AC教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。  
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度( )書き等のみを記入してください。

## (2) 専任教員数

設置時の計画					変更状況					年齢構成	
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計	教員の定年年齢	定年を延長している教員数
15	5	4	5	29	16	3	5	7	31	65	10
(9)	(3)	(3)	(1)	(16)	[1]	[△2]	[1]	[2]	[2]	歳	名

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( ) 内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成26年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)
- ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、および、平成26年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数を記入してください。
  - ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

番 号	職 位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
1	教授	東條 英昭	一身上の都合による就任辞退（22）
2	教授	金子 弥生	一身上の都合による就任辞退（23）
3	教授	堀尾 政博	一身上の都合による就任辞退（24）
4	准教授	竹村 哲雄	一身上の都合による就任辞退（26）

- (注) ・ 専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任（就任辞退を含む）等の理由」に辞任理由等および（）書きで報告年度を記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>当該教員の就任辞退は、授業開講前に代替教員を採用したことで、学生の学修への影響はほぼ無いと判断している。学生には、授業開講前であるため、シラバスの配付をもって周知する。（22）</p>
<p>当該教員の就任辞退は、授業開講前に代替教員を採用したことで、学生の学修への影響はほぼ無いと判断している。学生には、授業開講前であるため、シラバスの配付をもって周知する。（23）</p>
<p>当該教員の就任辞退は、授業開講前に代替教員を採用したことで、学生の学修への影響はほぼ無いと判断している。学生には、授業開講前であるため、シラバスの配付をもって周知する。（24）</p>
<p>当該教員の就任辞退は、授業開講前に代替教員を採用したことで、学生の学修への影響はほぼ無いと判断している。学生には、授業開講前であるため、シラバスの配付をもって周知する。（25）</p>
<p>当該教員の就任辞退は、前期開講科目に関しては、授業開講前に代替教員を採用したことで、学生の学修への影響はほぼ無いと判断している。また、後期開講科目に関しては、授業開始前に専任教員を採用予定である。学生には、授業開講前であるため、シラバスの配付をもって周知する。（26）</p>

- (注) ・ 上記（3）の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してくださ

## 6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
認 可 時  (平成21年10月)	<p>・設置の趣旨・目的等が活かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、開設時から4年制大学にふさわしい教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。</p> <p>・動物看護学に関する教育研究を向上させる観点から、動物実験が必要となることも十分に考えられるため、それを学内でも実施できるよう環境作りに努めること。</p>	<p>・開学時から4年制大学にふさわしい教育研究活動を行い、その水準を一層向上させるように、各種委員会を立ち上げ、努力をしている。研究に関しては、「年間計画書」を提示するとともに、個人研究・共同研究を推進する体制作りを行っている。教育に関しては、学生による授業評価アンケートの実施等の検討をしている。このように大学組織全体として、継続的に取り組むところである。(22)</p> <p>・4年間の学修の集大成となる卒業論文指導を充実させるため、平成22年度から「研究委員会」を開催し、具体的な卒業論文実施計画案を策定し、計画案にそって準備を重ねている。(23)</p> <p>・動物実験に関する検討は、「研究委員会」「DNA実験安全委員会」を立ち上げるとともに、動物看護学に関する教育研究を向上させるよう手法及び環境作りを検討しているところである。(22)</p> <p>・平成22年度は「DNA実験安全委員会」にて、組換えDNA実験安全管理規程にそった実験計画を策定し、準備を重ねている。平成23年度においても引き続き検討を重ねる。(23)</p> <p>・平成23年度においても「DNA実験安全委員会」にて実験計画の検討を重ねるとともに、災害時の対応等についても話し合いを行った。(24)</p>	
設置計画履行状況 調 査 時 (平成23年2月)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (平成24年3月)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (平成25年3月)	該当なし		

<p>設置計画履行状況調査時 (平成26年3月)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者の状況について、受験者のほとんどが合格していることや、必修科目として配置している「イングリッシュスキルズ（基礎）」については、Be動詞や文の種類（単文から複文）から仮定法までの内容とせざるを得ない状況と推察すると、入学選抜機能が働いているとは考えられないため、アドミッションポリシーに沿って適切な入試を行うこと。</li> <li>・「イングリッシュスキルズ（基礎）」については、大学教育にふさわしい水準となるよう内容を修正し、必要に応じ正課教育外での補習教育を整備すること。</li> <li>・当初専任教員が担当する予定であった「動物行動学」については、教員の就任辞退により兼任教員が後任として担当しているが、動物看護師を養成するにあたり、「動物行動学」は主要な科目として位置付けられると考えられ、大学設置基準第10条の趣旨を踏まえたと少なくとも専任教員が担当することが妥当であるため、後任補充について適切に対応すること。</li> <li>・動物看護学実習（隣地実習）では、実習施設担当者との事前・事後の打ち合わせや研修等を実施し、実数の趣旨・目的や実習での達成目標等の共通理解を図り、施設ごとに実習内容が異なることがないよう着実に実行し、客観的評価のもと、実習の質が担保されるよう努めること。</li> <li>・動物看護学部動物看護学科において、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想を策定し、着実に実行すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学学生の質を確保するためには、受験者数の増加を考えなければならない。これまで本学の教育が、他大学に見られない特徴的な教育内容であることが周知されていないことから、来年度以降は、そこに重点をおいて受験者数の増加を考えていきたい。このために、学修総合委員会の中に新しくカリキュラム検討委員会を立ち上げ、本学の特色を検証し、教育研究の充実を図り、入学定員の充足を維持しつつ学生の質の向上を目指している。（26）</li> <li>・高等学校の英語の教育課程を精査してシラバスを見直し、最終的にどのクラスでも大学教養レベルに到達するよう授業内容を確認した。基礎の英語に関しては、昨年より試験運用しているEラーニングシステムによるリメディアルプログラム運用準備を進めている。（26）</li> <li>・「動物行動学」担当の専任教員として茂木千恵氏を講師とする旨、平成25年12月に専任教員採用等設置計画変更書（AC教員審査）を提出し、平成26年2月に審査結果の伝達を受け、職位適格、科目担当可であった。平成26年4月に着任した。（26）</li> <li>・専任教員等を中心に学生も実習先を事前に訪問し、実習先と実習内容を綿密に協議している。また本学の教育に対する理解の深い実習先を精選し、実習の事前教育において実習の趣旨・目的に関する講義の回数を増やす等で徹底をはかっている。事前の実習見学も実施し、実習期間中は専任教員等による訪問指導を行い、実習内容の徹底のため実習ノートを作成している。（26）</li> <li>・大学設置認可申請に際し、平成21年6月の是正意見に対応した書類の内容を踏まえ、平成26年3月には専任教員6名（75歳、74歳、74歳、71歳、70歳、69歳）が退職し、平均年齢は60歳から56歳となった。平成26年4月着任の専任教員は、66歳、54歳、39歳、37歳、29歳である。（26）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学選抜において、A0入試では受験者にオープンキャンパスへの参加を義務付け、そこの講義や体験について作文を書かせることにより、本学のアドミッションポリシーにふさわしい学生を受入れる。また、センター試験利用入試においても、出願書類に作文を加え、本学への理解と動物愛護の精神について確認する。以上の措置は、平成27年度入学生のための入学試験から実施する。平成27年度から新カリキュラムを実施する。</li> <li>・4月に実施する英語学習傾向試験の結果に基づき、リメディアルプログラム受講者を決定し空き時間に自習させる。リメディアルプログラムで扱う学習内容には、教員は授業時間内での指導を避け、学生の自学自修を促す。指導教員がその進捗状況を管理する。</li> </ul> <p>平成26年度の実習（8月下旬）から、動物病院実習を客観的評価するため、学生の行動等を記載した実習ノート、実習先の責任者による実習評価表、実習報告会の参加度等の成果を踏まえて、本学の担当教員が合議により成績を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年4月新規採用専任教員予定であった竹村哲雄（准教授、65歳）の就任辞退により、後任補充として、平成26年度後期授業開始前に専任教員を採用する予定である。</li> </ul>
----------------------------------	--	--	---

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
  - ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
  - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

## 7 その他全般的事項

### <動物看護学部 動物看護学科>

#### (1) 設置計画変更事項等

認可時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>① アッセンブリーアワー等について</p> <p>② 図書等の資料及び図書館の整備計画            渋谷キャンパス：14,576冊            南大沢キャンパス：15,517冊</p> <p>③ 専修学校施設との共用</p>	<p>① アッセンブリーアワーの運営について            担当教員の授業負担に鑑み、4分割から2分割にした演習形式とし、柔軟に対応できるような科目運営体制とする。            なお、隔週授業の為、学生に混乱を与えないよう連絡や掲示等をしていくこととする。</p> <p>② 学生の学修環境を改善するため、1年次のカリキュラムに一層即した蔵書となるよう見直しを実施し、渋谷キャンパスの蔵書数を14,576冊、南大沢キャンパスの蔵書数を15,517冊とした。(22)</p> <p>学生の学修環境の充実を図るため、渋谷キャンパスの蔵書数を14,927冊、南大沢キャンパスの蔵書数を15,949冊とした。(23)</p> <p>学生の学修環境の充実を図るため、渋谷キャンパスの蔵書数を15,171冊、南大沢キャンパスの蔵書数を16,353冊とした。(24)</p> <p>学生の学修環境の充実を図るため、渋谷キャンパスの蔵書数を15,174冊、南大沢キャンパスの蔵書数を17,462冊とした。(25)</p> <p>学生の学修環境の充実を図るため、渋谷キャンパスの蔵書数を15,394冊、南大沢キャンパスの蔵書数を17,905冊とした。(26)</p> <p>③ 大学渋谷1号館については、大学が使用しない曜日と時間帯を限定した上で実習室を共用としている。            その他の施設に関しては、必要に応じて施設利用申請許可で施設貸しを実施している。</p>
<p>学則</p> <p>④ 学則の組織について</p> <p>⑤ 学則の休業日について            休業日 土曜日、日曜日</p> <p>⑥ 教育課程について</p>	<p>④ 事務部を事務局とし、2キャンパスにおいて相互に連携をとって学生支援が可能となるよう組織を編成した。</p> <p>さらなる学修環境向上のため、教員組織の検証を行い、副学部長及び副学科長を置くこととした。(26)</p> <p>⑤ 休業日を日曜日のみとし、講義等の事前事後指導時間を確保し、学生にとってより良い履修計画を実施出来るよう変更した。</p> <p>⑥ コンパニオンアニマルを取り巻く社会環境に鑑み、時代の要請に対応するため、カリキュラムについて検討を重ね、教養教育科目に、動物に関する人の価値観、考え方を時代、民族、地域等様々な観点から考察する科目として「動物ジャーナリズム」を配置し、専門教育科目に、歯科疾患や口腔疾患への理解及び予防のための理論と実習からなる「動物歯科学」、「動物歯科学実習」を置くこととした。</p> <p>更に、高齢社会におけるわが国の様々な健康課題に対応すべく「ジェロントロジーとドッグウォーキング」を新たに配置した。            なお、本学の英語教育における学力向上のため、英語学習傾向試験の結果を踏まえ、「イングリッシュスキルズ（基礎）」及び「イングリッシュスキルズ（応用）」について、「イングリッシュスキルズ（基礎）A～H」及び「イングリッシュスキルズ（応用）A～H」に科目名を変更した。加えて、英語文献講読力を身につけることを目的に、専門応用科目に「アドバンストイングリッシュ」を新たに配置することとした。(26)</p>
<p>⑦ 修業年限を超えて在学するものの学費等について</p> <p>シラバス</p> <p>⑧ 評価方法の表記について</p>	<p>⑦ 修業年限を超えて在学する者の学費等については、在学生との均衡に配慮しつつ、学生の負担軽減を図る観点から第45条の規定とは別に定めることとした。(26)</p> <p>⑧ 「評価方法（評価基準を含む）」の記述を、学生にわかりやすく混乱のないようにするため語句を「出席」、「授業への参加度」、「出席状況」から「授業への参加度」に変更した。(24)</p>

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。  
 ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

## (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

### ① 実施体制

#### a 委員会の設置状況

##### ヤマザキ学園大学FD委員会規程

(目的)

第1条 ヤマザキ学園大学（以下「**本学**」という。）学則第4条の規定に基づき、本学教員は、動物愛護の精神と豊かな人間性を基盤として、広い知識と専門の学芸を深く教育・研究することを任務とし、質的向上の推進並びに教育方法の改善等を見直し、本学の教育充実をいっそう図るため、FD（Faculty Development）委員会（以下「**委員会**」という。）規程を定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、前条の目的に資するため、次の事項を審議する。

- (1) 教員の質的向上の推進について
- (2) 教員の授業改善、見直しについて
- (3) 教員の教育技術の向上について
- (4) 学生による授業評価等について
- (5) 教員の学会等を始め、学内外諸団体等の研修の参加等について
- (6) その他、学長の諮問について

(構成)

第3条 委員会は、次の委員をもって、構成する。

- (1) 学部長
- (2) 専任教員の中から学長が指名する者

(任期)

第4条 委員の任期は、役職者はその在職期間とする。その他の委員は2年とし、再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、学部長とする。

2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。

3 委員会に、委員長が指名する副委員長を置く。

(会議)

第6条 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。

2 学修総合委員会の要請、その他必要に応じ、開催する。

3 委員会には必要に応じ、教職員をその都度出席させることができる。

(議事録)

第7条 事務担当者は、委員会の議事録を作成し、保存するとともに、必要に応じ、学修総合委員会及び教授会に報告しなければならない。

(事務)

第8条 委員会の事務は、事務局教務・学生課において行う。

(規程の改廃)

第9条 この規程の改正及び廃止は、教授会の議を経て学長が定める。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から制定施行する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から改正施行する。

#### b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

・平成25年度は3回開催した。

第1回：平成25年4月11日（出席6名、欠席3名）

第2回：平成25年6月19日（出席7名、欠席2名）

第3回：平成25年7月24日（出席8名、欠席1名）

・学部長を委員長とし、教員から選出される委員と担当事務職員の9名にて委員会を開催。

委員会開催は、委員の過半数以上の出席をもって成立とし、毎回、開催要件を満たしている。

#### c 委員会の審議事項等

・学生の教員評価について（授業評価アンケートの項目立案、実施、集計結果の分析）

・研究業績に関する情報公開について

・FD関連の情報収集及び提供について

・FDに係る研修会及び講習会の実施について

・初年次教育のゼミ等の開催等、教育環境の充実について

② 実施状況 ※実施されている取組を全て記載すること。

a 実施内容

- ・ 教育研究にかかわる研修
- ・ 授業科目の教育目標の周知・徹底
- ・ カリキュラムの改善
- ・ シラバスに関連する対応
- ・ 授業評価
- ・ FD関連の情報収集と周知
- ・ FDに関する研修
- ・ 初年次教育のゼミ等の開催

b 実施方法

- ・ FD委員会において、各取組み方法を検討し、授業評価アンケート様式等を策定して実施している。実施後は結果をまとめ、教員全員が出席する専任教員連絡会等を通して公表している。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ 教育研究にかかわる研修  
新しい学問分野である動物看護学、動物看護学教育について、教育上の目的や養成する人材像について考えを統一しておくことが必要であるとの観点から、研修会を開催し、意思統一を図っている。
- ・ 授業科目の教育目標の周知・徹底  
授業担当者が内容について十分に話し合い、他の授業科目との関連（授業内容及び授業範囲）について、連携を踏まえながら、教育目標の周知・徹底について取り組んでいる。
- ・ カリキュラムの改善  
教育内容の向上を図るために、学生による授業評価と教員による自己評価、動物看護を巡る国内外の教育研究の動向を考慮したカリキュラムの改善を目指し、カリキュラムに多少の修正を加えながら授業を実施している。
- ・ シラバスに関連する対応  
シラバスの内容の充実・改善を図るため、FD委員会にて、成績評価基準について検討を行なっている。
- ・ 授業評価  
学期の最終授業時に各科目の授業評価アンケートを行い、結果を科目個別、講義科目全体、実習科目全体で集計し、全体と比較した。また、授業の改善資料として、科目個別集計結果は、担当教員に配布している。
- ・ FD関連の情報収集と周知  
FD委員会にて、他大学のFD関連活動の取り組みを取り上げ、議論している。
- ・ FDに関する研修  
FDに関する研修の一環として、大学設置基準改正による業績の情報公開に伴い個人研究・業績のとりまとめの必要性から、学内において教員対象研究業績管理システムの勉強会を開催している。  
また、FD委員会主催で本学教職員を対象にした講演会を平成25年9月17日および10月7日に開催した。
- ・ 初年次教育のゼミ等の開催  
各教員が希望学生を対象に能動的に参加できるプログラムを用意し、「主体的な学び」が出来るようにゼミ等を開催している。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・ FDに関する研修  
大学間連携FD活動の一例として、山形大学を中心に設立されたFDネットワーク”つばさ”に本学教員が参加し、他大学におけるFD活動の内容及び状況について情報収集し、その後意見交換を行った。  
また、FDに関する研修の一環として、以下のとおり学内講演会を実施した。  
①平成25年9月17日  
出席者:31人  
内容:(1)第13回山形大学FD合宿セミナーに参加して 発表者:岡崎教授  
(2)特殊な条件を持つ多様な学生への配慮 発表者:小倉教授  
(3)質保証向上を目指した大学教育改革と授業改善 発表者:石田教授  
講演者:本学専任教員(上記3名)  
②平成25年10月7日  
出席者:69名  
内容:看護教育の現状と課題  
講師:外部講師 聖路加看護大学長 井部 俊子先生  
両日とも多くの本学教職員が参加し、あらためてFD活動の意義、重要性が理解され、意識改革へと繋がった。  
また、平成26年1月8日に学長から教職員へ将来展望について周知され、意思統一が図られた。
- ・ 授業評価アンケート  
授業評価アンケートを半期毎に実施、全体集計結果に対する科目毎の結果をレーダーチャートにし、各教員へ通知した。これを受けて各教員は学生からの要望等を取り纏め、授業改善に繋がるよう努力している。また、各教員からFD委員長に、授業改善等の報告書を提出することとした。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・ 年2回 学期（前期、後期）の最終授業時に各科目の授業評価アンケートを実施。

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・ 事前に学生へ授業評価する意味やその重要性について教授したうえで、アンケートを実施した。その後、アンケートの全体集計結果に対する科目毎の結果をレーダーチャートにして各教員へ通知し、授業の実施方法や結果の活用方法などについて検討を指示した。  
また、学生には科目毎の評価結果をレーダーチャートにし掲示板にて公表した。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）



### (3) 自己点検・評価等に関する事項

#### ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学としての全般にわたる自己点検・評価は、学部長が中心となる自己点検・評価委員会によって、専任教員や事務部に対し、自己点検・評価の重要性及び、調査や資料収集の意義を説明する場を設けるなどし、十分な意思の疎通を図り実施体制を築く。各自が自己点検・評価の意義を理解し、改善すべき点を分析し努力していくことになる。

開学にあわせ「ヤマザキ学園大学自己点検・評価委員会設置について」及び「ヤマザキ学園大学自己点検・評価委員会規程」に基づき、平成25年度は自己点検・評価報告書作成の進捗状況等について、平成25年9月30日に委員会を開催した。

- ・学長を委員長とし、教員から選出される委員と担当事務職員の14名にて委員会を開催。委員会開催は、委員の過半数以上の出席をもって成立とする。

#### ② 自己点検・評価報告書

##### a 公表（予定）時期

- ・平成27年10月 公表予定

##### b 公表方法

- ・自己点検・評価報告書を刊行し、関係機関に配布予定
- ・大学ホームページ上に公開予定（平成27年10月を予定）

#### ③ 認証評価を受ける計画

- ・平成28年度に評価機関（財団法人 日本高等教育評価機構）の評価を受ける予定

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

### (4) 情報提供に関する事項

#### ○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無 (  有 ) ・ (  無 )

b 公表時期（未公表の場合は予定時期） ( 2010年6月15日 )

c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」掲載ページへのリンク

(  承諾する ) ・ (  承諾しない )

d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス

(<http://www.yamazaki.ac.jp/jigyo/img/pdf/rikou2014.pdf>)